



照明 R&Dセンター
センター長

鎌田 策雄

Director
Lighting Research & Development
Center, Lighting Manufacturing
Business Unit

Kazuo Kamada

特集「照明技術」によせて

アメリカの金融不安に端を発した世界同時不況は先の見えない混沌とした状態から脱却できず、わが国においても未だに好転の兆しが見えません。今後、経済が回復したとしても、すでに成熟化している照明市場においては、少子高齢化に伴う社会環境変化から規模を拡大することが困難となっています。また、地球環境問題に 대응べく LED 照明の本格的な普及が始まっていますが、他業種からの参入で競争相手も多様化して非常に厳しい事業環境となってきています。このような状況下では、これまでとは異なる新たな対応をとることが喫緊の課題です。

当社では経営ビジョンとして「真・お客様主義 Creating Customer Delight」を掲げ、お客様が「見えていないもの」、「気づいていないもの」、「想像も及ばないもの」を創造・提供することに重点を置いています。そこで照明事業部門では、必需品としての照明器具から脱却して付加価値創造型への転換を図っており、「eco と信頼」を基本に「先進と洗練」で良質な空間を提供することを事業コンセプトとして活動しています。

そのため、我々は下記の項目に重点を置いて開発を行っています。

1. ハードウェア面でのアプローチ

照明器具は長期にわたり使用されるため、基本性能である安全性、省エネルギー性がとくに重要であり、お客様には製品寿命まで安心して使用していただく「見えない安心感」を提供する必要があります。そのためには設計段階における品質の作込みが最重要であり、さらなる設計力のレベルアップを図るとともに、要素技術、製品技術、および製造技術が一体となった「モノづくり」により、真の技術優位に立つことを目指します。

2. アプリケーション面でのアプローチ

器具体性能の追求は当然ですが、それだけに留まっていたのでは、LED や有機 EL などを新光源とする照明器具においては海外も含めた多数の新規参入者に対する優位性の確保が困難となっています。照明空間の提供という基本視点に立ち、当社で培った光制御技術、照明空間設計技術、照明空間評価技術を駆使するとともに、情報や住建事業部門の技術とも融合させ、さらにはパナソニックグループの総合力を結集して時代に合った最適な照明空間・システムを提案して参ります。

これらに 대응べく、主に次の分野の研究開発に注力し、当社のコアコンピタンスとしてさらなる強化を図っています。

- (1) 安全性、省エネルギー等のための器具設計技術、高効率点灯回路技術
- (2) 省エネルギー、快適性のためのセンサ等応用技術、照明制御技術
- (3) UD、快適性のための光学設計技術、光学材料技術、照明空間評価技術
- (4) 照明の新規応用分野としての植物育成技術、生体リズム調整技術
- (5) 有機 EL 等の次世代光源開発・応用技術

本号では、省エネルギー照明器具、新たな照明空間評価法、光の新規応用展開例を重点に、技術開発成果の一端をご紹介します。

ぜひご高覧賜り、忌憚のないご意見・ご指導をいただければ幸いです。